

は荒廃地が増加しています。地域ごとに工夫をしていく必要があると思います。

清水

私の農園では、川辺や旧浅科でお米、大豆、そば、トマト、パプリカなどを栽培しています。土づくり、育苗、生育管理、収穫、調整、保管など技術的な部分は毎年改善しています。たくさんさんの資料を読んで自分なりに工夫をして、それを記録して次の栽培に活かすようにしています。すべての基本は、私のお米を買ってくれるお客さんが「何を求めているのか」ということです。おいしいだけでなく、「安全・安心」なものが求められていると感じています。

■清水さんの取組みから見える今後の小諸の農業の方向性

岡本 清水さんは、お客さんに求められるものを意識して工夫する取組みを続けてこられました。これからの農業振興に様々なヒントを与えてくれていますね。

市長

清水さんの取組みは、まさにこれからのお手本になると思います。現在は、大量生産・大量消費から良

い品を使う分だけ購入するという消費行動に転換しつつありますので、国が進める大規模化・省力化・機械化だけでは取り残される恐れがあります。特に中山間地域の農業では、今までのない工夫や変化が求められています。その工夫の一つが6次産業化だと思います。

大池

「消費者に求められるもの」、「安全で安心なもの」を生産することが、今後の農業のスタンダードになると思っています。

■「量と品質」 今後の中山間地域での農業

岡本 これまでのお話の中で、6次産業化、中山間地域のことのできました。小諸市としては、具体的にどのような進んでいくのがよいでしょうか。

市長

これからは、物流の変化、TPPの発効などを見据えると、今までにない取組みが必要になってきます。中山間地域では、大規模土地利用型農業や大型機械化を展開するにも限界があります。小諸には誇れる農産物が

あり、優れた生産者もいらつしやるので、「量」もさることながら「品質」をさらに磨いて、ブランド化された農産物と「小諸」の情報発信していくことが重要になると思います。

そこで、「おいしくて、安全で安心なモノづくり」という共通の価値観をもった生産振興組織を作って、良質な農産物を作り、小諸から発信していきたいと考えています。清水さんにはその先頭に立って、これまで培われた技術・ノウハウで、小諸の米のブランド化に協力していただければと思います。

大池

農業委員会も農林課と連携し、技術的なことも含めて講習会などを計画していきたいと考えています。

清水

微力ですが、小諸市のために協力させていただきます。

■小諸市の農業振興と農家収入増のための6次産業化拠点施設整備

岡本

栽培技術の工夫により品質を向上させ、コンテンツで知名度をあげていく今回のような取組みは、良質

な小諸の農産物を知ってもらうきっかけになります。また、お米の他にも果物、高原野菜、そば、豆類、花牛乳もあります。味噌、醤油、日本酒、ワイン、ジュース、ジャムといった農産加工品もあります。「小諸ブランド」に育つタネがまだまだたくさんあるように思います。

市長

情報発信には「求められるモノを作って、それを販売する場所」が必要です。市では、そのための販売拠点を整備していきたいと考えています。具体的な内容は、今後マーケティングや関係者の意見を聞きながら検討していきます。

「6次産業化拠点施設1」は、市内各施設に波及的に経済効果をもたらすゲートウェイ（玄関口）として、他の施設や機能とつながり、新しい魅力を発信する拠点としたいと考えています。特に農業や地域の文化等の体験を都市部の人に積極的に提案し、市外・県外から新たな観光客を増やしていきたいと思っています。このことを通じて、小諸のファン

が増え、小諸に移住・定住してくれる人が増えればと考えています。

大池

「6次産業化拠点施設」が地域の人の所得向上につながるものにしていく必要があると思います。継続的に集客力をつけていくこと、冬場も農産物が作れる施設栽培の普及、夏場の農産物を貯蔵するなど、この土地ならではの課題もあると思います。いずれにしても、既存の直売所などとの連携や情報発信基地にしていこうという構想には賛成です。

清水

私の農園では、お米の他に菜種油やきなこ、そば粉などの販売もしています。もちろん、個々の経営体の努力も必要ですが、個人の力では限界があります。農家が一生懸命作った作物が「喜ばれる」、そんな施設を期待しています。私も、これまで以上に頑張りたいと思います。

市長

小諸の魅力アップのために頑張ってください。本日は、どうもありがとうございました。

※1 「6次産業化拠点施設整備の基本的考え方」として、ホームページに公開しています。